



たかの
高野 たけし
無所属 45歳

逗子市議会議員（5期）

- ・市議会議員
- ・逗子市観光協会 理事
- ・全国市議会議長会 社会文教委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

防災教育と復興対策などを視察させて頂くため、逗子市の村松教育長のアテンドで、県内教職員有志と一緒に宮城県石巻市、女川町、南三陸町を訪問してきました。

◆大川小学校跡地(石巻市)

北上川を挟んで大川小学校の向かいに位置する石巻市立北上中学校の元校長、畠山先生に当時の話と学校現場での防災対策についてお話を伺いました。

地震発生後、大川小学校に残っていた児童と教職員は安全とされていた校庭(海拔1.1m)で約50分間待機したのち、学校に程近く、校庭より少し高い位置にある三角地帯(海拔6m)に向かったところに津波が襲来し、児童74名、教職員10名(当時78名の児童と11名の教職員が校庭にいたと言われている)が犠牲になってしまったとのこと。大川小学校の場所(海から約3.8km、北上川から約200m)は過去の地震発生時にも津波が到達した事はなかったことから、学校関係者だけでなく地域住民の間にも安全との認識があったようです。こうしたことを教訓に、最悪を想定した危機管理マニュアルの作成と地域と連携した訓練の重要性を訴えていました。

津波に破壊された校舎(1985年建設)は、今後も震災遺構として残されることが決定したそうです。



政治資金の残り

あと 26,103円

(5/1～6/30の内訳)

支出…ポスター掲示用両面テープ・結束バンド 3,844円

◆一般社団法人コミュニティスペースうみねこ(女川町)

代表理事の八木純子さんは、被災後自らも避難所生活を送る中、そこで生活する人達の心のケアの必要性を感じ、避難所内での子守り活動やデイサービスの開設を行ったとのこと。

その後仮設住宅に移ってからは、被災者の雇用創出を目的に、津波で浸水した納屋をリフォームした『ゆめハウス』で、不要Tシャツから作った草履やハンドメイドアクセサリーを創作する傍ら、漁師ができなくなった男性達のために果樹園や作り、収穫したイチジクを使ったデザートやお茶などの販売にも取り組んでいます。



◆たみこの海パック(南三陸町)

ここを運営する阿部民子さんは、被災前ご主人が営むワカメの養殖を手伝っていましたが、津波を経験し海から逃げたいという気持ちになってしまったそうです。7月に仮設住宅に入ってから社会福祉協議会での仕事を通じ、被災者への訪問を行う中でその思いを吐露したところ、海産物の詰め合わせ販売のアイデアをもらい事業化。2012年10月にプレハブを改造してスタートした事業も徐々に軌道に乗り始め人を雇えるようになってからは、子育て中のママさんなど地元の人を積極的に雇用しているそうです。

現在は新たな商品開発を行い、地元の海産物を加工品にして全国に広めると共に、あたり前と思っている事への感謝を伝える活動も行なっています。



どーなっているの？

◆歩道の段差を解消!!

新逗子通り商店会の会長から、「歩道上の排水溝の周辺が劣化し、段差もできて歩行者が危ないのでは」との話がありました。現地を確認したところ排水用グレーチング周辺のコンクリートが一部欠けており、グレーチングが陥没する形で段差が。歩行者が躓く恐れもある上、そのまま放置しておくとも最悪落下してしまう危険もあると判断し、担当所管を通じて当該道路の管理者である神奈川県に改修を要請。段差のできていたコンクリート部分は平らに整備され、錆びついていたグレーチングも新品に。



◆歩行者の安全対策を要望

市民の方より、「JR逗子駅の東側に位置する金沢新道踏切を逗子側から山の根側に渡った場所は左折車との距離が近いため、歩行者の安全対策を行ってほしい」とのご提案をいただきました。普段自分自身も通る機会がありますが改めて現地を見ると、特に踏切が一定時間閉まっていた後などは歩行者や自転車の通行も多いため、接触の危険が高いと感じました。そこで、JR逗子駅の西側にある池田踏切に設置されているような安全ポールを設置するなど、歩行者等の安全対策を行っていただくよう市の担当所管に要望したところです。



ご指摘のあった金沢新道踏切(左)と、安全ポールの設置されている池田踏切の歩道(右)



Topics

◆73位から36位に大幅ジャンプアップ

東洋経済新報社が毎年行っている『住みよさランキング』の最新版が発表されました。814の都市(全国791市と東京23区)を対象に、16の指標を「安心度」、「利便度」、「快適度」、「富裕度」、「住居水準充実度」の5部門に分類した上で評価を行っています。今年から「年少人口(0~14歳)増減率」や「可住地面積当たり飲食小売事業所数」などが新たな指標として追加されたため、東京23区などの都市部が大幅に評価を上げる結果となっていました。そんな中であっても、1位は7年連続で千葉県印西市。快適度、利便度、富裕度などで今年も高い評価を得ていました。

逗子市はどうだったかと言うと、関東編では14位と昨年から2つ順位を下げたものの、総合では昨年の73位から36位に大幅ジャンプアップ。快適度、富裕度で昨年同様の高評価を得られたことに加え、利便度の評価が昨年より高くなったことが要因と思われます。

この評価が自治体の良さを決定する全てではありませんが、やはり我が街が上位にランクインしていると嬉しく思います。もちろんこの結果に満足するだけでなく、今回発表された指標から本市のストロングポイントやウィークポイントを探りながら、引き続き魅力あるまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

■「住みよさランキング」地域別(関東)トップ20

順位	都市名(都道府県名)	総合評価	偏差値
1	印西(千葉)	1	60.37
2	守谷(茨城)	4	56.92
3	中央区(東京)	5	56.46
4	つくば(茨城)	7	56.34
5	港区(東京)	8	56.29
6	千代田区(東京)	9	56.20
7	成田(千葉)	10	56.14
8	武蔵野(東京)	13	56.05
9	流山(千葉)	14	55.63
10	鎌倉(神奈川)	21	55.47
11	品川区(東京)	22	55.30
12	文京区(東京)	28	54.83
13	世田谷区(東京)	35	54.63
14	逗子(神奈川)	36	54.62
15	立川(東京)	37	54.36
16	目黒区(東京)	38	54.30
17	渋谷区(東京)	45	54.18
18	台東区(東京)	50	54.05
19	白井(千葉)	52	53.99
20	習志野(千葉)	53	53.97

TOYOKEIZAI ONLINE

今回宮城県を訪れ、東日本大震災から7年が過ぎた今も復興には至っておらず、多くの人の心に残った傷は深いことを改めて感じました。しかしながら、震災に負けず、地域の再興と地元住民の活力を取り戻すための活動がしっかりと行われていたことも併せて実感したところです。六月十八日に大阪府北部で震度六弱の地震が発生したように、神奈川県内でもいつ大規模地震が発生するかわからない状況であるため、今回の経験を元に改めて本市の防災環境の整備を構築していきたいと考えています。

【編集後記】